

- 18:15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。
- 18:16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。
- 18:17 それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。
- 18:18 まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつなげており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。
- 18:19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつ一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。
- 18:20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」
- 18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」
- 18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。
- 18:23 このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。
- 18:24 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。
- 18:25 しかし、彼は返済することができなかつたので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。
- 18:26 それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします』と言った。
- 18:27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。
- 18:28 ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間で、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ』と言った。
- 18:29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから』と言って頼んだ。
- 18:30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。
- 18:31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。
- 18:32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。』
- 18:33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』
- 18:34 こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。
- 18:35 あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」

はじめに

今日で、マタイの福音書の五大説教の4つめの説教の学びを終わります。

この個所のテーマは教会における戒律についてです。

これはあまり好まれるテーマではありませんが、学び始める前に、教会における戒律が存在する理由について理解する必要があります。

そこには4つの理由があります。そのひとつは今日の個所に登場します。他の3つの理由は、その前後の個所に記されています。

1. 教会に戒律があるひとつめの理由は、迷子になったりさまよい出たりする羊が尊いからです。

10-14 節には失われた羊のたとえがありましたが、そこで教えられていたのは、イエスにとってすべてのたましいが尊いということです。教会が教会員を戒めなければならないのは、信徒ひとりひとりのたましいのために、イエスが死んでくださったからです。

2. 教会に戒律があるふたつめの理由は、赦しと家族の和解を期待するからです。

今日の個所の直接的な背景では、罪を犯した信徒の赦しがテーマです。

神ご自身および信仰の家族との健全な関係に連れ戻すために神の子たちを戒めることは、神の家族と神にとって大切なのです。

3. 3 つめの理由は、戒めを怠ると、教会全体に影響が及ぶからです。

この 4 つめの説教の前半で、罪を犯すことは教会全体にとって悪い証となると学びました。(18 : 6-9) クリスチャンの戒めは、教会をきよく保ってくれます。

4. 4 つめの理由は、イエス・キリストがそう命じられたからです。

イエス・キリストの命令に従わないという選択肢はありません。イエスは教会の主ですから、私たちはその教えに従わなくてはなりません。

罪を許容することは、愛ではありません。罪を犯す人を戒めることが愛です。

教会において戒律が必要な理由がわかったところで、今日の個所の学びに入りましょう。

イエスは、15-20 節で教えを語られ、21-35 節で、仲間を赦さなかったしもべのたとえをとおして赦しをわかりやすく説明されます。

1. 教会内での罪に対処する。(15-20 節)

まずお伝えしなければならないのは、これらの原則が地域教会に属する新生した信徒にのみ適用されることです。明らかにクリスチャンでない人に、この原則を適用することはできません。

イエスは、踏むべき 3 つの段階について教えてください。

第一段階：行って兄弟を得る。

ひとつめの指示は、15 節に記されています。あなたと当事者である兄弟姉妹の間の個人的な会話です。それで解決して、相手が悔い改めたら、次の段階に進む必要はありません。

その一件に複数の人に関わっていると、もう少し複雑になる可能性もありますが、要は、あなたに対して罪を犯しただけでなく、神に対して罪を犯したのだということを相手にわかってもらうことです。

内容を書くのが良い場合もあります。自分が受け取った事実を相手に伝えて、相手の反応も記録します。

私たちの記憶というのはそれほどあてになりませんから、誤解が生じることがあります。

相手の人をイエスのもとに連れ戻すには時間がかかりますから、忍耐が必要です。

悪魔はいつもことを急がせようとします。けれども、神には時間がたっぷりあります。神は忍耐をもって私たちに対応してくださいます。

第二段階：確かな証拠を提示する。

16 節は重要です。相手が罪を犯したことを否定したり、罪を隠すために言い訳したりしたときに必要になります。

しっかり祈ってその人のところに再び話をしに行ったにもかかわらず、相手がまだ否定するのなら、次の段階に進む必要があるでしょう。

イエスがここで教えておられることは、申命記 19 : 15 に基づいています。

申命記 19 : 15-20

19:15 どんな咎でも、どんな罪でも、すべて人が犯した罪は、ひとりの証人によっては立証されない。ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。

19:16 もし、ある人に不正な証言をするために悪意のある証人が立ったときには、

19:17 相争うこの二組の者は、【主】の前に、その時の祭司たちとさばきつかさたちの前に立たなければならない。

19:18 さばきつかさたちはよく調べたうえで、その証人が偽りの証人であり、自分の同胞に対して偽りの証言をしていたのであれば、

19:19 あなたがたは、彼がその同胞にしようとたくらんでいたとおりに、彼になし、あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。

19:20 ほかの人々も聞いて恐れ、このような悪を、あなたがたのうちで再び行わないであろう。

そうするには、理由があります。

a) 偽りの告発や誇張された非難内容からクリスチャンを守るため。

クリスチャンの中には、他人を厳しくさばいたり、不当に責めたりする人たちがいます。また、悪魔が真実でないことを私たちに吹聴することもあります。

告発者本人がうそをつく可能性もあります。

個人の意見ではなく事実関係をはっきりさせ、その問題について告発者以外に2名以上の判断を仰ぐことで、真実を確認しやすくなります。

クリスチャンの兄弟姉妹が悔い改めるのを手助けすることが目的です。

罪を犯していると指摘されると、そう簡単に悔い改められないものです。そういうときに、穏やかに優しく指摘してくれる人がいれば、悔い改めやすくなるかもしれません。

b) 次の段階に進む必要があれば、公の証人となるため。

パウロは自身の手紙で、「すべての事実は、ふたりか三人の証人の口によって確認される」と二度語りました。(コリント第二 13 : 1、テモテ第一 5 : 19)

問題を次の段階に持って行って教会全体で判断してもらう必要があるときには、その証人たちが事実確認の重要なカギとなります。

私は昔警官でしたが、目撃証言を得る際は慎重に質問しなくてはなりませんでした。

「あなたは実際にそれを目撃しましたか。」

「あなたは実際にその人物がそう言うのを聞きましたか。」などです。

すると、「いや、実際に見たわけではないけれど、絶対にそうです」とか、「私が聞いたわけではありませんが、友だちが聞いたのです。だから本当です。」といった答えが返ってくることもよくありました。

よく考える時間を与えてから再度尋ねる必要があるかもしれません。

罪を犯している瞬間は、楽しく気持ちよく思えるかもしれません。悪魔は、罪の結果について私たちが気づかないよう目をくらまそうとします。

けれども、一定の期間を与えても、その人が悔い改めずに罪を犯し続けていたり、周囲からの助けや助言を拒絶していたりするなら、次の段階に進む必要があるでしょう。

第三段階：教会全体からの正式な懲戒

まず、この段階に至らなくてはならない理由について理解する必要があります。

第一段階と第二段階でのキーワードは、「聞き入れる」です。

罪を犯している信徒が、その人の罪についてあなたや成熟したクリスチャンの兄弟姉妹に指摘されても聞き入れなかったからこの段階に至るわけです。

そこまでいくとたいへんですが、対処しなくてはなりません。

旧約と新約いずれも、この段階に至ってしまったときにどういうことが起こるか教えてくださいます。

(創世記 17 : 14、出エジプト記 12 : 15,19、30 : 33、38、コリント第一 5 : 5、11、12、テサロニケ第二 3 : 14-15、ヨハネ第二 10、テトス 3 : 10)

現実的には、その人を教会から除籍し、聖餐式など教会の一員であることを示す活動への参加を禁じることです。

もちろん悔い改めの余地はありますし、そうなるように祈らなければなりません。

この個所の学びを終える前に、18-20節を覚えておく必要があります。

イエスは、ご自身が昇天された後でイエスの教えに対して異議を唱える人が起こることを予想しておられたようです。

罪を犯している人物は、「それはあなたの聖書解釈であって、私はそう思いません」とか、「あなたに私を戒める権利があるのですか。あなたは神ではないでしょう」と言うかもしれません。

18-20 節でイエスが言っておられるのは、イエスが教会にその権威を授けるということです。イエスは教会のかしらとして、教会にその権威を委任されます。(エペソ 5 : 22-23 はじめ、他の 8 つの個所に、イエスが教会のかしらであることが言及されています。)

私たちがイエスの指示に従うなら、イエスの権威を私たち自身がいただいているわけです。このように話してきましたが、21-35 節も非常に大切です。神に赦していただいたにもかかわらず、人をなかなか赦せないクリスチャンがいることを、イエスをご存知だからです。

2. 赦しについて：イエスが語られたたとえ

21 節でペテロは、「兄弟が私に対して罪を犯した場合」について語っています。

そして、七度まで赦すべきでしょうか、と言います。7 は完全な数字とされているからでしょう。

これに対しイエスはすぐさま、「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」とお答えになりました。

それは、490 回という意味ではありません。イエスは、赦しに回数の制限はないとおっしゃっているのです。

そして、その真意をたとえによって説明されます。

たとえの主旨は、自分がイエスによって赦されたことを感謝し、その感謝の心をもって人に対応し、赦しの精神を持つことです。

これはたとえであることを覚えておく必要があります。たとえば、道徳的な教訓や信仰に関する教えを説明するための簡単なお話です。細かい点にこだわる必要はありません。大切なのは、そこに示された真理だからです。

たとえで教えられている内容は次のとおりです。

1. 私たちに對して罪を犯した信徒を赦すのに回数の制限はありません。

ですから、「赦すのは今回で最後です！」とは言えないのです。

2. 私たちは皆、返すことのできない借りが神にあります。

1 万タラントは、何千億円という途方もない金額に相当します。

返済は不可能です。

それが要点です。私たちの罪は、返済不可能な借りを神にしているようなものです。どんなに良いことをしても、罪を帳消しにはできません。

私たちの罪は、どんなに頑張っても 1 円も預け入れることができない銀行口座のようなものです。

負債が重くのしかかりますが、自力で逃れることはできません。

3. 私たちが心から罪を悔い改めると、神はイエスのゆえに私たちをあわれんでくださいます。(26 節)

私たちの赦しにおける重要人物はイエスです。イエスが私たちの罪の罰を受けてくださったからです。「する」と「した」という言葉を考えてみてください。「する」は現在形で、「した」は過去形です。私たちが「する」ことで、罪の重荷や罰から自らを救えることは何ともありません。それは、神がすでにそれを「した」からです。

神は私たちを深く愛してくださったので、ひとり子イエスをこの世に遣わされました。私たちの救いの代価を支払うためです。

4. 神が私たちにしてくださったように、私たちも人にするべきです。

28-31 節には、膨大な借金をあわれんで赦してもらった人が、少額の借金をしていた人を赦すつもりがなかったことが記されています。

100 デナリとは、約 100 日分の賃金です。コンビニで一日 8 時間バイトしたら日給 6,500 円くらいになります。その 100 日分ですから、約 65 万円ということです。

これを、彼の借金の額と比べてみてください。何千億円に比べれば、わずかな金額です。

私もクリスチャンになる前に、神に対してどれほど大きな借りがあったかと考えさせられます。そして、イエスのゆえに神が私を赦してくださったことがどれほど大きなことかと思わされます。

コリント第二 5 : 17-21

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

5:19 すなわち、神は、キリストにあつて、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。

自分はクリスチャンだと言うなら、私たちは神の使節です。

神は、私たちをとおして懇願しておられます。

ですから、神が私たちを赦してくださったのと同じ姿勢で、人を赦す心を持つべきです。たとえ話に出てくる人は、自分が巨額の借金を赦されたことをすっかり忘れてしまいました。

5. 私たちに罪を犯した人を赦さないと、神は喜ばれないだけでなく、怒られます。(32-34 節)

この話では、私たちのもとに赦しを求めて来る人を心から赦さなければ、神が私たちをさばかれると教えます。

イエスはマタイ 6 : 9-13 で主の祈りを教えられた後、次のようにおっしゃいました。

マタイ 6 : 14-15

6:14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。

6:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。

最後に心に留めておくべきことは、私たちに罪を犯す人を赦すなら、負い目からその人を解放するということです。

その行為をとおして、人の罪の重荷を取り除くことができる唯一のお方であるイエスを指し示すのです。

聖なる神に罪を犯したことを直接示されたなら、私たちは罪をイエスにおささげしなくてはなりません。

そうすれば、イエスは喜んでそれを受け取り、私たちを赦してくださいます。

マタイ 11 : 28-30

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

イエスは、私たちの罪を取り去り、良いものを与えてくださいます。

その良いものとは、聖霊というかたちで与えられるイエスご自身です。

神の聖霊とともに歩むなら、困難に直面しても、以前とは違います。私たちにあるのは罪ではなく、イエスとともに天国で過ごす永遠のいのちという希望だからです。イエスは新しい人生を優しく導いてくださいます。私たちをまず整えたうえでなければ、何かをするように求めることはなさいません。

あなたは、イエスに罪をおささげしましたか。
今、イエスにごめんなさいと言って、自分の罪をイエスにお渡ししましょう。

クリスチャンの兄弟姉妹に対して、赦せない気持ちを持ち続けていませんか。
もしそうなら、そのことを今、イエスに告白し、その人を赦しましょう。

まだイエスを信じていない人、クリスチャンの兄弟姉妹を赦していない人は、今日の聖餐式への参加はご遠慮ください。

祈りましょう。